目　次

1.　はじめに…… p1
2.　TIES…… p3
3.　フットサル…… p5
4、Cube……p6
5.　POOL……p7
6.　フィリピン募金活動…… p8

はじめに

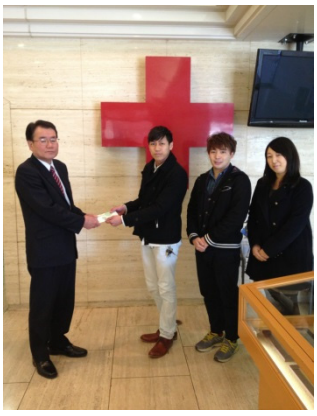
私たち WAP は ASEAN(Association of South - East Asian Nations）地域における国際的な社会貢献に取り組んでいます。

「和歌山大学から国際協力を」を理念に活動しており、WAP メンバーの多くが和歌山大学で行われる ASEAN プログラムの参加者です。帰国後に各国の問題を考え、そこから私たちができる社会貢献は何か話し合い大学内を始め ASEAN 諸国へ実際に赴き、国際的な社会貢献活動を行っています。

現在は、タイを拠点に肢体不自由な子どもたちに車椅子を贈る活動を行う TIES 部門、その車椅子の資金獲得と ASEAN について知ってもらうことを目的とし関西圏で定期的にフットサル大会の運営を行うフットサル部門、インドネシアを拠点とし、愛媛大学と共同でゴミ問題を抱える地域に住む住民へ教育、健康・保健の面から教育支援を行う CUBE 部門、ASEAN 各国の経済・政治等の知識を深めるための日々情報収集や他大学の国際協力団体との交流を担当している POOL 部門の４つの部門に分かれて活動しています。これらの部門ごとに行われる会議・活動のほかに毎週１回全体会議を行っています。また、上記部門での活動のほかに和歌山大学祭での出店（JICA との共同）やワン・ワールド・フェスティバル（国際協力・交流に関わるＮＰＯ／ＮＧＯ、政府機関、国際機関、教育機関、自治体、企業が参加する西日本最大のフェスティバル）等への参加を通して、多くの団体と交流し視野を広げ、活動に役立てています。さらに、昨年度はフィリピンで起きた巨大台風における被災地への募金活動を大学内と和歌山市内の駅前で行い日本赤十字へ送金しました。

このように、WAP はタイをはじめインドネシア、フィリピンへと活動の幅を広げています。私たち和歌山大学生が国際貢献をしていくことにより、世界にひとつでも多くの笑顔がうまれるようメンバーひとりひとりが考え活動してきました。昨年度の各部門の活動内容を紹介し、報告書とさせていただきます。

（白石夏澄）



TIES

1、活動背景

２０１２年２月に実施された第二回タイフィールドプログラムの中で、企業訪問があり、デンソーを訪問させていただきました。その際に、デンソーが行っているＣＳＲのお話を聞かせていただきました。ＣＳＲとして、ＷＡＦＣＡＴという団体を組織し、障害児支援を行っているそうです。私たちは、ＷＡＰという団体になった今、ＷＡＦＣＡＴと連携し支援を行うこととしました。ＴＩＥＳとは、Transition to Inclusive Education and Society の略称で、すべての子どもたちが教育を通して、活躍できる社会へ！という意味が込められています。

（瀬口聖佳）

2、昨年度活動内容

TIES 部門では教育支援を軸にし、三日間における活動の中で、主に三つの活動を行いました。

１つめは、車いすの組み立てと寄贈です。組み立ては、現地の工場で実際に私たちの手で、現地スタッフと協力して行いました。これらの車いすの資金は先述の通り国内でのチャリティ活動で集まったものです。その完成はまさに、協力してくださった方々の思いが、形となる瞬間であったということができます。そして、その車いすを翌日から２日間に渡り、２つの施設で子どもたちに寄贈しました。またその内２人の子どもたちの自宅へは、彼らの自宅への訪問と、インタビューで家族からお話をしていただく貴重な機会を得ることもできました。

⑴ 車いす組み立ての様子

２）車いす贈呈式の様子

（

２つめは、子どもたちとの交流です。活動期間訪れた３つの施設で私たちは様々な障害を抱える子どもたちとの交流企画を実施しました。子どもたちが経験したことの無い遊びを実施しようと考え、竹とんぼ、紙風船などの日本の昔遊びを提供することにしました。言葉の伝わらない環境でも子どもたちは十分にそれを楽しんでくれて、WAP 全体のテーマである「笑顔」をたくさん見ることができました。最後に、これからも楽しんでもらえるようおもちゃを子どもたちに寄贈し、３回に渡る交流企画はすべて成功しました。

（３）竹とんぼを楽しむ子ども

（４）おもちゃを受け取る子ども

３つめは、タイ、ロッブリー県にあるラチャパット大学日本語学科の学生との交流です。３回生、４回生の学生と２日目、３日目行動をともにし、交流企画の補佐をしてもらったり、それらを通して感じたことを共有することもできました。活動終了後には彼らの期末試験として、ロッブリー県内の観光地を日本語でガイドを行ってもらい、今回の活動の中心であったロッブリー県についてもくわしく知ることができました。今年度行った活動は以上です。どれも「笑顔」を創ることのできた大変意義のある活動となりました。

（辻 立貴）

3、今後の活動予定

今年の夏季休暇において、次回の活動を予定しています。前回に引き続き、現地の車いす工場において車いすを組み立て、こどもたちに寄贈するという活動を予定しています。加えて新たに、こどもたちとともに遠足に出かけるという活動も今回の活動にぜひとも取り入れたいと考え、現在、計画を練り上げている段階です。この活動は、障がいのあるこどもたちにとって、「社会参加への第一歩」となるのではないかと考えています。前回の活動を通し、障がいのあるこどもたちは、外の世界と関わる機会が大変限られており、そういった機会は学校への登下校のみだという場合が非常に多いということを知りました。そこで、そのような現状をふまえ、普段とは異なった方法によって外の世界と関わり新しい感覚を覚えるというような経験は、障がいのあるこどもたちにとって、社会参加への第一歩となるのではないかと考えたのです。障がい者にとって、学校に通い教育を受けることができるということはもちろん、その先にある、社会への参加も果たし社会の一員として日々の生活を送ることができるということも大きな目標のひとつになってくると思います。障がいの有無に関わらず、「すべてのこどもたちに教育を」「すべてのこどもたちに社会参加へのきっかけを」こういった目標をいつも活動の中心に置き、これからもさまざまな活動を展開していけるよう精一杯努力していきたいです。また、ひとりでも多くのこどもたちを笑顔にできるような活動も、私たちの目指す活動の在り方です。そして、前回の活動において多くのサポートをしてくださったラチャパット大学日本語学科のみなさんとのつながりをこれからも大切に、ともに活動を有意義なものにしていけたらよいなあと考えています。（長田奈津美）

チャリティーフットサル

1、活動背景

WAP として活動していく上で必要な資金を集めるために、募金などでただ単に集めるのではなく多くの人を巻き込んで楽しみながら行いたい、資金を集めたり協力を得たりすることはそれらを与えてくれる方々にもメリットがあるほうがさらに良いのではないか、と考えた私たちは一手段としてフットサルイベントを選択しました。実際、国際貢献に興味がある、してみたいけれど何をすればいいのか分からないという声がたくさんあることに気づき、そういう人たちに、国際貢献できる場を提供したいと考えました。また、今まで国際貢献に興味がなかった人にとって、このチャリティーフットサルが国際貢献や東南アジアのことに興味を持つきっかけになれば良いと考えています。

2、昨年度活動内容

これまでに７月、８月、１１月と３回大会を開催しました。この大会で出た収益は全額、タイの障がいをもった子どもたちへ車いすを寄贈するための資金になります。７月大会では７チーム、８月大会は１０チーム、１１月大会では１１チームに参加して頂きました。参加者は大学のサークルがほとんどでしたが、社会人チームや女性の方、フットサルをあまりやったことがない人など様々な方に参加して頂きました。昨年の７月、８月の２回の大会で車いす３台分、１１月大会で４台分の支援金を集めることができました。そして、実際に８月にタイ現地へ訪問し、車いすの組み立ても手伝いながら、車いすを寄贈してきました。このフットサル大会は皆さんにフットサルを通じて楽しく国際貢献をしてもらう場を提供するだけでなく、実際に私たちがタイをはじめとした ASEAN 諸国に行き、見たもの感じたものを共有したり東南アジアについてもっと知ってもらうことも目的としています。その為に試合の合間には東南アジアに関するミニゲームも行ったりしています。

WAP の活動をパネルを受付の横に置いていると、試合の合間にたくさんの人が見に来てくれ、色々と話すことができました。右の写真はミニゲームを行っている写真です。蹴って当たった的にそれぞれついている ASEAN に関するクイズに答えてもらいました。ミニゲームの点数は試合の得点に加算されることもあり、皆さん楽しみながら真剣に取り組んでくれました。ASEAN のことはあまり知らない人も多く、勉強になったという声もたくさん聞くことができました。また、体を動かしながら試合の合間にミニゲームができて楽しいという声もたくさん頂きました。また、賞品もタイ現地で購入してきたりと、少しでも ASEAN に興味を持ってもらえるような工夫を行っています。

3、今後の活動予定

今後も定期的に大会を開いていく予定です。３月大会も開催が決定しており、今はその準備に取り組んでいます。その後も２～３か月に１回のペースで定期的に大会を開いていけるようにしていくつもりです。そして、今後はさらに広報活動に力を入れ、もっと色々な大学や社会人の方に参加していただけるような大会にし、規模も大きくしていきたいです。内容としては、今まで通り ASEAN に関心をもってもらえるような活動を試合の合間に行っていきたいと思います。誰でも気軽に参加でき、フットサルを通じて楽しみながら国際貢献できる場を、そして参加者同士の交流も行えるような場を提供していきたいと思います。(木本　りさ)

Cube

1、活動背景

私たちは、インドネシアブカシにある、ゴミ処理場“バンダルグバン小中学校”の子供たちに向けて、活動を行っています。バンタル・グバンはジャカルタから南東方面に車で 1 時間半ほどの距離に位置する地域で、ここには首都ジャカルタ（広域では約 1000 万人）で排出されるごみが毎日運ばれ埋め立てられています。3 郡にまたがる広大な処理場で、オープン・ダンピング（野積み）方式として、様々なごみがそのまま巨大な山のように積まれているのです。

住民の多くは戸籍を持っていない状況があります。子ども達も正規の学校教育を受けることができないのです。そのため篤志家などから寄付を得て、非正規の小中学校「アル・ファラー」が 2007 年に創設されました。私たちは、この「アル・ファラー」の子ども達に「夢」を持たせるボランティア活動を愛媛大学グローバルコミュニティーと協力し活動をはじめました。

2、昨年度の活動内容

9/11～9/18 にかけて来年 3 月実施予定の国際協力活動の事前調査のために、和歌山大学 1 回生～3 回生の計 6 人と藤山一郎特任准教授の 7 名がインドネシアに訪れました。また、本調査には愛媛大学の国際協力サークル「愛大グローバルコミュニティー」との合同事業であり、3 名の学生が参加しました。

両日とも、宿舎に戻ったあとに各々が交流を通して感じた事などを意見交換し、また情報を共有した。その結果、まだ具体的ではないものの「アル・ファラー」を拠点にした活動を検討することで一致し、当面は来年 3 月の現地活動を目標にして両者で協議していくことになりました。

なお、今回の活動では、和歌山大学からインドネシアの邦字新聞「じゃかるた新聞」にインターンシップで派遣されている学生が同行取材し、9 月 17 日付の同紙に活動模様が掲載されています。

3、今後の活動予定

3 月のインドネシア渡航に向けて、食育・実験・菜園作りの観点からアプローチしていきます。アルファラー小中学校の子供たちが、夢を持ってもらえるように、地域に根付く継続的な試みをしていくことが目標です。

また、今後も愛媛大学との共同事業として進めていくことができるように両大学間での意見交換を密にとっていきます。より専門的な技術提供がスムーズに現地で行うことができるように、外部の講師とも連絡を取り、講習会を開いていただくことも検討しています。

そして何よりもまず、今回つながりを持つことができたアルファラーの小中学校の子供たちとの関係を大切にし、今後も継続的な支援を行うことができるようにしていきたいと考えています。（木岡　大湖）

POOL

1、活動背景

ＰＯＯＬには主に２つの任務があります。

ひとつは WAP 構成員の知識の涵養です。WAP 構成員は全員海外渡航経験があり、ユニークな知識や経験を持っています。それらを共有する機会を積極的に設けることを目的に POOL が作られました。また、日本や ASEAN を中心に、時事問題や社会問題を日々研究・発表を行っています。

もうひとつは、WAP の運営補佐です。無記名アンケート調査や聞き取り調査などを行い、よりよい運営のための提案をします。

2、昨年度活動内容

ⅰ)WAP 構成員の知識の涵養を目的とした活動内容

POOL の活動には、POOL 内で完結するものと WAP 構成員全員が参加して行うものがあります。

前者の活動のひとつに「ASEAN なう」があります。ASEAN のニュースを POOL 構成員が調査を行い、全体に紹介しました。

後者の活動のひとつに GC(Gathering Comments)と呼ばれるものがあります。授業の空きコマを利用して、日本や ASEAN の社会問題について議論を行う場を提供しました。WAP 構成員は 6、7 名程度にグループ化され GC に参加しました。GC の各グループで得られた結論は、毎週木曜日に行われる全体会議で全員に共有されました。

ⅱ)WAP の運営補佐を目的とした活動内容

WAP は誕生から 2 年も経っていない若い組織です。ゆえに、運営面で未成熟さが否めませんが、組織や企画の規模は徐々に大きくなっています。WAP のよりよい運営に貢献するための POOL の具体的な活動として、無記名アンケート調査、聞き取り調査、そして外部組織調査があります。無記名アンケート調査では、WAP の運営の方向性を探り、実行しました。聞き取り調査では、各企画の班長から運営について改善すべき点を詳しく聞きだし、打開策を提案しました。外部調査では、WAP の活動と方向性の似ている他大学の団体の運営を調査し、WAP の運営に役立てました。

3、今後の活動予定

ⅰ)WAP 構成員の知識の涵養に係る今後の活動予定

これまで、POOL は WAP 構成員に知識を提供したり、知識を得るきっかけを作ったりしてきました。今後は、それらに加えて、発表する機会を作っていく予定です。WAP 構成員が、仕入れた知識をまとめ上げ、全体に向けて発表することで、知識を得るステップから発表するステップまでを完結させる力を涵養する機会を設けます。

ⅱ)WAP の運営補佐に係る今後の活動予定

POOL は、特に外部調査を発展させるつもりです。これまでは、他大学の団体にメールでアンケートを行うのみに留まっていました。今後は、実際に会って互いの活動内容を深く知り、運営についてのノウハウを吸収する方針です。3 月大阪府立大学の団体と勉強会を開く予定があります。(平松　幹洋)

フィリピン支援募金活動　報告書

和歌山大学　学生団体
「和歌山 ASEAN プロジェクト」

昨年１１月８日に巨大台風がフィリピンに直撃し、莫大な被害に見舞われました。

ASEAN 諸国への国際協力に取り組む我々に何かできることはないかと考え、この緊急事態に、迅速に募金活動を実施することが必要であると考え、募金によって一人でも多くの被災者を援助しようと活動を始めました。

さしあたって、12 月の中ごろから年末までの短い期間の間、大学内と大学外（主に JR 和歌山駅）に分けて精力的に募金活動を行いました。

[12 月末までの募金額]

＜学内活動＞

実施日・時間	場所	人数	集金額
11/23 大学祭	シンボルゾーン	10人	¥10,000
12/11 昼休み	シンボルゾーン	5人	¥8,069
12/12 昼休み	シンボルゾーン	7人	¥12,577
12/13 3限	観光棟	4人	¥1,459
12/13 昼休み	シンボルゾーン	8人	¥12,961
12/17 昼休み	シンボルゾーン	10人	¥8,682
12/18 昼休み	シンボルゾーン	6人	¥3,638
12/19 昼休み	シンボルゾーン	8人	¥3,202
12/20 2限	学長室	5人	¥13,500
12/24 昼休み	シンボルゾーン	7人	¥6,505
12/25 2限	理事長室	5人	¥9,000
12/25 昼休み	シンボルゾーン	11人	¥9,289
12/26 昼休み	シンボルゾーン	7人	¥5,001

＜学外活動＞

実施日・時間	場所	人数	集金額
１１月３０日（土）12:00~18:00	フットサル	10人	¥2,843
１２月６日　（金）　19:00~20:00	大学前駅	5人	¥4,719
12月１１日（水）　19:00~20:00	JR和歌山駅	6人	¥10,738
12月１２日（木）　20:45~9:45	JR和歌山駅	9人	¥18,450
12月１３日（金）　19:15~20:15	JR和歌山駅	4人	¥10,412
12月１７日（火）　7:30~8:40	JR和歌山駅	4人	¥16,064
12月１８日（水）　18:30~20:00	大学前駅	8人	¥13,773
12月２０日（金）　19:00~20:00	JR和歌山駅	3人	¥10,100
12月２４日（火）　7:45~8:40	JR和歌山駅	6人	¥6,191
12月26日（木）19:00～21：30	JR和歌山駅	3人	¥52,618
12月26日（木）19:00～21：30	大学前駅	4人	¥3,663
12月２８日（土）18:00～23：00	ＪR和歌山駅	12人	¥100,751

学内合計額　　¥103,883

学外合計額　　¥250,322

総合計額　　**¥354,205**

[集めたお金の送金]

1, 学内で集めたお金は WAP（和歌山大学公認の募金活動）として、直接、日本赤十字社へ送金しました。

2 ,学外（和歌山駅など）で集めたお金は、全国のいくつかの大学が連携している「フィリピン募金グループ」へ送金し、そこから『日本赤十字社』へと送金されました。

[まとめ]

１ヶ月弱という非常に短い期間の活動でありましたが、約 35 万円という数値で見てみると予想をはるかに上回る結果を得ることができたと考えます。フィリピンの物価が日本の 1/3 弱とすると、現地ではおおよそ 90 万

円相当の価値があります。巨大な NGO 団体などと比べると、確かにこの額は僅かばかりのものかもしれないですが、小さな学生団体でも短期間で 35 万円もの浄財を集められたことは私たちにとっても新たな発見であり、大きな可能性を見出すことが出来ました。

また、実際に募金活動をしていくなかで、多くの人との出会いがありました。学内での募金活動では、数多くの友人や教授方からの協力が得られ、励ましの声もいただきました。私たち WAP の活動理念に「周りの学生も巻き込み、和歌山大学から国際協力を」というベースがありますが、今回の活動ではまさに私たちの理念を遂行できたものであったと考えられます。加えて、和歌山大学長や和歌山大学理事からも協力をいただき、大学全体に一定の国際協力というものを拡散することが出来たように思います。そして何よりも、大学の方々の協力の数が非常に多く和歌山大学には尊敬すべき有志が数知れずいることに気づかされました。

学外の募金活動でも有り余るほど多くの方々から協力をしていただきました。老若男女を問わず様々な方が募金に力を貸してくださり、コミュニケーションをとることが出来ました。皆さん「寒いのに、偉いねー。頑張ってよ！」「勉強やらなあかんぞ！」などと言葉を掛けてくださり、時には温かい飲み物などの差し入れなんかもくださって励ましてくださいました。和歌山大学出身の方もしばしば声を掛けてくださり、母校の学生を見て感動して泣いていた方もおられました。そのような方々と触れ合いながら進めていった募金活動は、大変なやりがいを感じることが出来、国際協力と共に地域活性にも十分に貢献できるものだと思いました。兎にも角にも、和歌山は温かいところだとしみじみと感じることができました。

今回の活動において、他大学とも連携を取りながら協調していきました。そのような中で感じたことは、やはり、大学生という身分の者がより一層社会に対して大きなインパクトを与えていくことが必要であり、有意義なことであるということを痛感したことです。

また、国際協力というものは範囲が広く、世界中で存在している国際問題などを解決しようとしても困難すぎる事象であると思います。WAP のメンバーの一人が、今回のフィリピンの巨大台風で被災した現地を訪れました。彼曰く、「やらない善よりやる偽善のほうが楽しい。本当に心からしているお祈りなんかより、自己満足からくる「俺かっこいい」の国際協力の方が、何倍も被災地の人のためになり、そして楽しいと思います。偽善でも募金して、自己満足にひたって、誰かから感謝されて、被災地にいって見て、聞いて、話して、笑って、泣いて、また新しい視点が増えて、自分がまた成長する選択は、本当に楽しいよってことです。国際協力なんて、そんなくらいでいいと思うんです。」

彼の発言は私たちの活動の本質を示してくれていると思います。民間の国際協力などは、大層なことを成し遂げなければならないようなものではなく、現地の人たちと親密に繋がり合い助け合いながら、共に問題の解決へタクシングしていくことが重要であると思います。私たち WAP はこれらのことを踏まえ、これからもタイ、インドネシア、フィリピンなどの国への国際協力を進めていきます。　（古味　直之）